

# 自立活動部だより

天王みどり学園自立活動部  
発行日 2018. 2. 2 No. 3

☆今号は、12月25日に実施した事例報告会と佐藤言語聴覚士によるミニ講義についてお伝えします。  
今年度も残り少なくなりましたが、今後の学習活動にお役立てください。

## 外部専門家を活用した事例報告会③



事例報告： 教師とのコミュニケーションを大切にした給食指導

～咀嚼動作と前歯を使って噛みきる動作の実践～

### 【実 態】

- ・小学部3年男子。
- ・言葉掛けに対する発声や動作が増えてきている。
- ・友達への関心が高まってきている。友達顔を覗き込んだり、側に行き立ち止まったりする。
- ・手に持った物を顔の近くへ持っていき、音や感触を確かめる。舐めたり口の中に入れてたりする。
- ・食事は、口に入れた物をあまり咀嚼せずに丸飲みして食べることが多い。

|      |  |
|------|--|
| 指導目標 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・歯と舌を使って、食べ物を噛んで食べる。</li> <li>・食べたいものなど自分の気持ちを教師に動作や声で伝える。</li> </ul> <p>【3人間関係の形成(1)】【5身体の動き(3)】【6コミュニケーション(1)】</p>    |
| 指導内容 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・刺激の少ない環境作り</li> <li>・「できた」を認める場面作り</li> <li>・具体物を提示し、簡潔な言葉を使ったやりとりの場面の設定</li> </ul>                                    |
| 指導方法 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・1回に食べる量の調整をする。</li> <li>・歯で噛みきる動作を促す。(短い言葉や擬音を使って)</li> <li>・食べたいものを伝える動作や発声を促す。</li> <li>・頑張ったことを具体的に称賛する。</li> </ul> |

### 【給食の時間の取組】

|       | 佐藤STから   | 改善点   |
|-------|--|---|
| 8月31日 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○うどんを吸い込みながら飲み込んでいて、咀嚼がない。</li> <li>○口唇を閉じて噛みきる動きはできるようになってきている。</li> <li>○舌の動きは前後が多い。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○麺類は刻む。(舌、咀嚼、顔上げの動きを促す。)</li> <li>○上下の歯で食べ物を挟み、首を振って噛みちぎる動作を引き続き行い、口の使い方の練習をする。</li> </ul> |
| 10月5日 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○刻みにしたことで、食物が口の中にとどまる時間が増え、咀嚼動作が微増した。</li> <li>○前歯での噛みきる動きは、上下の歯に力を入れてできるようになってきている。</li> <li>○担任と関わりをもちながら食事を進めることで、やりとりしながらゆっくり食事が進んでくることが増えてきている。</li> </ul> |   |

### 【大きく変化した要因は・・・？】

- 担任の関わり方の工夫(食べたい物を確認しながら食べる、本児と気持ちを共有する)
- 麺の長さや太さにより、キッチンばさみを使って調整

### 【今後の取り組みについて】

- 家庭と連携しながら、咀嚼や噛みきる動作へのアプローチを行う。
- 気持ちの共有、簡潔な言葉を使ったやりとりなどを通して、基礎的なコミュニケーションの力を伸ばす。

## 「咀嚼の未熟な子への関わり」

サンクリニック 言語聴覚士 佐藤静華先生

### 【発達障害児にとっての咀嚼とは】

咀嚼は、関連器官による協調運動で、非常にハードルが高い獲得機能である。口唇や舌、顎、頬の機能発達にも注目が必要である。



### 【なぜ咀嚼できない？咀嚼しない？】

- ・「口を閉じて飲む」「上あごでの押しつぶし」が上手くできていない。
- ・「前歯でかじりとる」ことが上手くできていない。食べ物を、大きいまま飲み込んでいる。
- ・丸飲みする感覚が、快感になっている。
- ・食べ物をどんどん口の中に押し込んでいる。
- ・視線が定まらない。目と手の協調性が乏しい。目的的な手の操作がしにくい。
- ・下を向いて食事をしている。口の中に食べ物を溜められない。
- ・手を使うための姿勢が保持できていない。
- ・口の中、口の周りに感覚過敏がある。



### 【どうすれば咀嚼機能が発達する？】

- ・前歯でかじりとるトレーニングをする。(例) 大きいままのパンを、前歯でかじりとる。
- ・臼歯列(奥歯)で噛み合わせするトレーニングをする。
- ・手を使って活動する。事物を操作する。→目で見て、運動を調節できるようになる。対人関係が広がる。
- ・言葉を掛けて聴覚を刺激し、食べ物をお皿に入れることで視覚を刺激する。→手と目の協調性が伸びる。
- ・食を介して、やりとりの基礎を育てる。(例) 待つ(受動)→食べる(能動)→待つ→食べる
- ・「終わり」を伝え、それに向かって行動できるように育てる。
- ・同じ姿勢を保持する。→刺激を受け入れる第一歩。発達が促される。
- ・認知を育て、生活経験を重ねる。→過敏性が低減する。

### 【事例から感じたこと】

- 咀嚼機能だけでなく、やりとりが成立し始めた。
- 人や音声に関心が向いてきた。それにより、視覚や聴覚を使うようになってきた。
- 外界に向かおうとする姿勢ができてきて、上体が起きようになった。
- 視野が拡大し、さらに外界に気付きやすくなってきた。
- 自己刺激行動が少し減ってきた。



☆様々な面からアプローチしたことで、全体的な発達が促されてきた。更に咀嚼機能が発達するよう、継続して指導してほしい。

「よく噛んで」「まだ口に入っているよ」など、給食指導で子どもたちに言葉を掛けている場面があります。今回の事例や講義を参考にすると、違った面から子どもたちが見えてくるかもしれません。普段何気なく掛けていた言葉とともに、いろんな方面からアプローチしてみてもいいかもしれません。